

日外協 SDGs フォーラム 2022

## SDGs は社会と事業の羅針盤

「日外協 SDGs フォーラム 2022」を3月25日に開催。

停滞している SDGs の取り組みを立て直し、力強く加速させたい。

企業にはビジネスを通じてそれぞれが持つ技術、製品・サービスで様々な社会課題を解決することが期待される。

個人には世界規模で考えながら自分の足元で行動を起こすことが求められる。

コーディネーター

### SDGs 折り返しの年



一般財団法人 日本総合研究所  
特任研究員 黒田秀雄

(くろだ・ひでお)東京海上火災保険㈱で30年間勤務後、退職。2004年4月東京富士大学短期大学部教授に就任。その後、東京富士大学教授となる(担当科目:経営戦略論、専門ゼミ、初年次教育)。定年退職後、17年4月から現職(研究対象:SDGs、地方創生)。「BOP ビジネス研究会」代表幹事。

日外協が第1回 SDGs フォーラムを開催したのは2019年。今回で第3回目になる。

2015年にスタートしたSDGsは2030年が最終年度・ゴールとなる。2022年は折り返しの年。SDGsは節目となる重要な時にさしかかっている。

私たちは2年以上にわたりコロナ禍への対応に追われてきた。大規模な自然災害も後を絶たない。最近ではロシアのウクライナ侵攻に多くの人々が心を痛めている。国際経済への影響も懸念される。企業もこうした目の前に次々と迫る経営環境の変化をどう乗り越えるか、少しも気を抜けない日々が続いている。

一方で残念ながら、SDGsが掲げる地球温暖化や環境汚染、格差・貧困など社会課題への関心は薄れていないだろうか。あるいは「とでもそれどころではない」になっていないだろうか。

しかし、こうした社会課題の解決は、世界中の多くの人々が求めてやまない根源的なニーズと言える。今のような時だからこそ、様々な社会課題に目を向け、事業を通じて解決を目指す必要がある。

「持続可能な開発」といえば、ごく当たり前のことのように聞こえるが、実現するのは容易ではない。それでも、目標に向かって進み続けること自体が、SDGsの本質といえるのではないだろうか。

今回のスピーカーは、次の3人。

1人目は、DX(デジタルトランスフォーメーション)で社会課題の解決を目指すBIPROGY(旧・日本ユニシス)㈱の宮森未来氏。

2人目はアフリカ・ウガンダから農薬も化学肥料も使わない自然栽培のコーヒーを輸入販売するかたわら、岐阜県の大垣市で、「農業と地方創生」を実践している㈱クリスタルの木下正義氏。

そして3人目は、無電化で汚水を放流しない浄化装置のナンバーワンメーカー、大成工業㈱の松本安弘氏。

スピーカーの皆さんには、「2030年がどのような年になっているか」「2030年にどのようなSDGsの目標を達成しようとしているのか」についても触れていただくようお願いした。

(文責:日外協)